

自己評価報告書

平成23年5月20日現在

機関番号：34511

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2012

課題番号：20520193

研究課題名(和文) 婦人雑誌にみる文学・ジェンダー・メディアの交差
—藤村「処女地」執筆者調査より—研究課題名(英文) Research on the Intersection of Literature, Gender and the Media,
by the Women's Magazines—Based on the Data of the Writers who wrote "The Shojochi"
Published by Shimazaki Toson—

研究代表者 永瀨 朋枝 (NAGAFUCHI TOMOE)

神戸女子大学・文学部・教授

研究者番号：00294273

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：近現代文学・国文学・メディア学・ジェンダー学

1. 研究計画の概要

本研究は、島崎藤村創刊の婦人雑誌「処女地」(1922・4～23・1)に執筆した女性達が、どのような人達なのか、どの雑誌にどのような文章を発表したのかという調査を切り口として、新聞雑誌間、殊に婦人雑誌間のつながりを明らかにする。それと共に、女性の自己表現の意味を探り、「処女地」と藤村とを再検討することを目的とする。

本研究は、並列的に進んできている個々の雑誌研究に見通しを与え、文学研究とジェンダー研究とメディア研究の交差する領域を開拓することをめざすものである。

具体的な研究内容は以下の通りである。

- (1) 「処女地」に執筆した女性達の執筆調査
- (2) 「処女地」執筆者における「処女地」の意味の解明
- (3) 当時のメディアにおける「処女地」の位置づけ
- (4) 婦人雑誌をはじめとする当時の新聞雑誌間のつながりの解明
- (5) 「処女地」に執筆した女性達の執筆目録作成
- (6) 藤村の全集未収資料発掘と藤村の再検討

2. 研究の進捗状況

(1) 「処女地」執筆者、編集者のうち、文学事典等に項目のない無名の女性達について略歴や執筆目録とその補遺をまとめた。また、項目のある11名の作家——生田花世、池田小菊、加藤みどり、川島つゆ、澤ゆき、島崎静子、鷹野つぎ、辻村(正宗)乙未、細川武子、若杉(板倉)鳥子、若山喜志子——について、作品や同時代批評、作家における「処女地」の位置づけ、研究状況等を調査してまとめた。

執筆者達の中には文学を志して上京した者が相当いること、6割強が高等女学校卒業よりも高学歴の女性達であったこと等が明らかになった。

(2) 「処女地」が女性達に発表と成長の場を与え、その後の文学生活の重要な契機となったこと、「処女地」は作家育成に一定の成果をあげたことを明らかにした。

(3) 従来論とは異なり、当時のメディアにおいて「処女地」発刊は時機を得た企てと見られ、作品は教科書にも掲載されていたこと等を明らかにした。

(4) 執筆者の調査から「女子文壇」→「処女地」→「女人芸術」という雑誌の系譜が見られることを明らかにし、「処女地」は女性達の連帯と人脈を作ることによって後続雑誌につながり、女性文芸誌の流れに位置づけられるものとなったことを解明した。

さらに多くの新聞雑誌間のつながりの解明をめざしている。

(5) 雑誌「処女地」を相対化するために、婦人雑誌の祖といわれる「女学雑誌」掲載の北村透谷「鬼心非鬼心」を論じた。貧しい実母による子殺しを扱う「鬼心非鬼心」は、「処女地」の作品や執筆者達を相対化し、現代に通じる。

(6) 「処女地」の11名の作家の執筆目録作成に向けて、執筆状況をデータ入力継続中である。

(7) 藤村全集未収資料のデータをデータ入力継続中である。

3. 現在までの達成度

① 当初の計画以上に進展している。

調査や考察、研究成果の発表等は、計画通りに進展している。

近年、新聞雑誌のデータベースや索引発行が相次ぎ、文献所蔵検索データも整備されてきた。それらを使った調査の中で、「処女地」の作家達や藤村が、当初予想したよりも膨大な量の執筆をしていることが明らかになった。入力や確認作業には予想よりも多くの時間を要することになるが、予想以上の成果をあげているといえる。

4. 今後の研究の推進方策

- (1) 「処女地」執筆者達の執筆調査から、より多くの新聞雑誌間のつながりを解明する。
- (2) 入力作業を継続しつつ、データを原紙・原誌の収集等によって確認し、「処女地」の作家達の執筆目録を順次作成する。
- (3) 発掘した藤村全集未収資料のデータ入力を続け、整理する。これらの文章から藤村を再検討する計画であったが、膨大な量にのぼることが判明した。本研究の主旨に照らし、藤村の再検討は主に「処女地」に関わることについて行い、藤村全集未収の文章全体による再検討については別の研究として行うことにする。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ① 永渕朋枝、「藤村発行の婦人雑誌『処女地』の位置——女性が書く意味」、「叙説」、有、第38号、2011年、46-61頁
- ② 永渕朋枝、「藤村『処女地』の執筆者——補遺、素川絹子」、「神女大国文」、無、第22号、2011年、33-48頁
- ③ 永渕朋枝、「藤村『処女地』に執筆した女性作家達(三)——細川武子、辻村乙未、若山喜志子」、「神女大国文」、無、第21号、2010年、59-75頁
- ④ 永渕朋枝、「明治の子殺し——北村透谷「鬼心非鬼心」における〈社会〉と〈魔〉」、「日本近代文学」、有、第81集、2009年、1-17頁
- ⑤ 永渕朋枝、「藤村『処女地』に執筆した女性作家達(二)——加藤みどり、島崎静子、鷹野つぎ、若杉鳥子」、「神女大国文」、無、第20号、2009年、14-30頁

[学会発表] (計2件)

- ① 永渕朋枝、「藤村『処女地』の位置」、島崎藤村学会、2010年9月25日、安曇野市穂高会館
- ② 永渕朋枝、「透谷『鬼心非鬼心』の時代」、北村透谷研究会、2008年6月7日、キャンパスプラザ京都